



曾畑式土器

熊本県・沖縄県交流展の開催について

館長 大城 徳次郎

昭和56年5月13日に開かれた第10回熊本県沖縄県連絡協議会において「博物館収蔵品の展示交換による文化交流」について、当沖縄県から提案され、昭和57年度から実施されることになりました。

熊本県と当沖縄県は早くから親近感をもって往来してきました。とくに第2次大戦中は、戦場と化した沖縄県の児童の疎開地として、親身の世話を受けたことは忘れ難いことです。その後は都市交歓会あるいは少年の船を通じて交流を深めてきました。両県側でも祖国復帰を契機に昭和47年度から「熊本・沖縄県連絡協議会」を持ち、人的交流を深め、現在に至っております。

その上に立って、両県の自然や考古・歴史・古美術品等の資料を交互に展示公開することは、それぞれの風土や歴史の中から生れ育った文化を認識し、さらに地域文化の新しい創造のために原動力になるものと確信します。今年は沖縄復帰10周年にあたります。この折目にあたり「熊本県の歴史と文化」展を開催することは時宜を得た計画であり、意義深いことと思われま

す。なお、このような交流展は全国でもめずらしいケースとして注目されております。この機会にぜひ多くの人々にご覧くださるようお願いいたします。

特別展熊本県・沖縄県交流展

熊本県の歴史と文化

昭和57年10月30日(土)～11月28日(日)



阿蘇草千里

熊本交流展概要

熊本県は原始時代、大陸や朝鮮の影響を直接に受けて先進的な文化をもっていたが、4・5世紀頃までに大和朝廷の支配下にはいる。国名を「火の国」、ついで「肥の国」と呼ばれ、大化の改新後、肥後国と称された。やがて律令制の崩壊、武士の台頭、蒙古襲来や南北朝・室町の動乱へと時代は変動するが、時々外からの影響を受けながら自らの文化を遺している。近世にはいり加藤氏、ついで細川氏の肥後入国で肥後細川藩が成立した。

この展観では、「熊本県の歴史と文化」というテーマで、その自然史、原始古代の考古資料と中世から近世にかけての文化財及び美術工芸品を系統的に展示する。

〈考古資料〉

熊本の原始古代を代表するものは全国の半数近くを占める装飾古墳である。5世紀後半から7世紀にかけて、彩色、線刻などによって円文、三角文等の

幾何学文様や、弓、矢、靱、馬、船等の具象的な文様をもつ古墳群が県北部を中心に栄えている。その中の横山古墳は双脚輪状文をもつ代表的な装飾古墳の一つである。

そのほか、旧石器時代から奈良、平安時代の代表的な遺跡の出土品を主体に展示し、さらに15～16世紀の阿蘇大宮司館(浜館跡)出土の宝器一括、また鎌倉幕府から任命され、郡地頭として球磨郡に下向した相良氏の館跡出土品を公開する。

〈中世・近世の文化財、美術工芸品〉

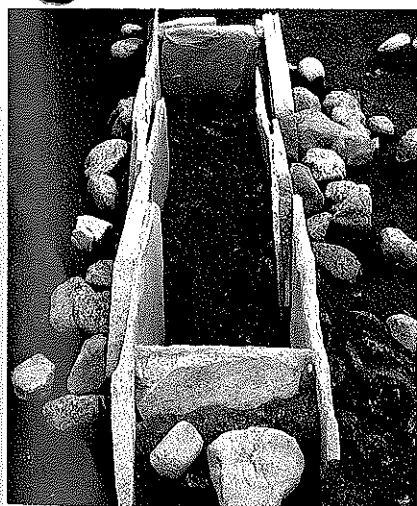
平安から鎌倉・室町にかけて活躍した菊池・阿蘇・相良氏などの古文書、中世の文化を象徴する仏教美術、対外交流によって受容された文物などを展観し、肥後の歴史と文化を跡づける。更に近世では細川藩の政治と文化の視点より、旧細川家コレクションである永青文庫の協力を得て、伝来の武器・武具・茶の湯・能・大名道具まで江戸文化の粋を展示する。



栗色革包紺糸射向紅威二枚胴具足
(細川韶邦所用)



正面達磨図(宮本武蔵筆)江戸時代



箱式石棺墓(塚原古墳群)



国宝 時雨螺鈿鞍(鎌倉時代)

■ 主なる出品物

〈自然〉

阿蘇の岩石、阿蘇の蝶、阿蘇の植物、阿蘇に飛来したツル、生きた化石サンショウウオ、九州山地の動物、有明海に住んでいた象(下顎化石)、肥後の六名花、熊本の天然記念物。

〈考古〉

下城遺跡、曾畑貝塚、三万田遺跡、諏訪原遺跡、下山神遺跡、塚原古墳群、横山古墳、国越古墳、向野田古墳、浜館跡

〈歴史、美術工芸品〉

絵画：正面達磨図(宮本武蔵)、帝鑑図(狩野派)、竹林七賢図(雲谷等顔)。

書蹟：信長、光秀、秀吉、家康、細川藤孝、玉(ガラシャ夫人)の書状

彫刻：木造地藏菩薩立像

金工：(重美)桜九曜紋透鐔、(重文)桜破扇文象嵌鐔

刀剣：(国宝)短刀・正宗、(国宝)大刀・行平、(国宝)刀生駒光忠

大名道具：黒地秋草模様腰巻

茶道具：大名物唐物茶入「利休尻噺」

俊成・定家一紙両筆(藤原俊成・定家)
七佛通戒偈(一休宗純)

能面・能装束：般若、翁

陶磁器：八代焼・小代焼

特別講演会

10月30日(土)午後2時

講師：細川護貞

(細川家17代当主・永青文庫顧問)

演題：「永青文庫と細川家」

講師：乙益重隆(国学院大学教授)

演題：「考古学上からみた熊本」

● 開館時間

〈平日〉午前9時～午後5時 (入場は4時30分まで)
(月曜日休館)

● 入館料

大人 500円(400円) 高・大生 400円(300円)
小・中生 300円(200円) ※カッコ内前売及び団体料金

● 問合せ先

沖縄県立博物館

〒903 那覇市首里大中町1の1
TEL 0988-84-2243・86-4353

〈お願い〉 駐車場が狭いので会期中、自家用車のご来館は遠慮願います。



熊本城

熊本県の概要

熊本県は九州の中央部に位置し、東西143km、南北127km、東部には九州山脈が連なり、中央部に九州第二の熊本平野が開け、西に宇土半島が突出して有明海、八代海に分れ、その西南に天草諸島が散在している。

人口 1,790,327人

世帯数 525,564世帯

(昭和55年10月1日、熊本県国勢調査人口)

面積 7,406.14km²

県下行政区 11市66町21村、98の行政区

県内には、火山高原の阿蘇国立公園、キリシタンの島として知られる雲仙天草国立公園をはじめ、山岳美、溪谷美、海岸美などそれぞれ特色をもつ七つの県立自然公園もっている。いずれも優れた自然環境に恵まれ、明るい南の太陽と緑にあふれている。その中にはぐくまれ伝えられてきた五木の子守唄など数多くの民謡や民芸、あるいは歴史の年輪が深く刻みこまれた古代遺跡などの文化財は、今なお現代に生きている。また旅情を慰めてくれる温泉は、県下に30カ所以上もあり、海に山に溪谷にそれぞれ趣きのあるたたずまいをみせて散在している。こうした熊本の風土や歴史につちかわれた中に農林漁業が盛んで、全国的に著名な熊本平野の米はいうまでもなく、鯛、えび、かに、真珠などの水産養殖、みかん、かき、くりなどの果物も豊富である。

なお、県庁所在地である熊本市は、昭和55年10月に人口55万人を突破し、ますます躍進をしつつあり、県では九州縦貫自動車道、熊本新港の建設、国際空港としての熊本空港の拡張、また今後の技術革新の華と言われるIC工業の進出も目立ち、県近代化に拍車をかけ、九州の雄県としての面目を躍如として示しつつある。

県章



県の木：くす

県の鳥：ひばり

県の花：りんどう